

<令和8年6月5日（金） 教育長定例会見>

県教育委員会、学校の取組をご紹介します。

<先生たちが創る「これからの学校」を応援>

これからの学校は…

現在の社会は、デジタル技術の進化等によって変化のスピードが速く、正解が1つではない課題が増えています。答えがないものに自分なりに挑み、他者と協働し、多くの方が納得する解を導き出す時代です。

このような変化の激しい時代背景に鑑み、県の教育大綱は、「自分で自分のことを決められる子どもに育てたい」としています。自分で考え、判断し、行動できる子どもの育成を目指します。答えがすぐに出にくい・答えがない問いにも挑んでいく力をつけることが大切です。知識を習得した上で、学校の内外で得た知識や体験を生かし、課題にチャレンジする子どもに育ってほしいと思います。

一方、学校現場では、多くの課題や外部からの期待に応えようとする中で、「これもやらなければならない」という意識や、これまで大切にしてきた慣例・実践の影響もあり、主体的に挑戦したいという思いが十分に発揮しにくい面があります。そのため、これまでを見直し、これからの在り方を考える機会としたいと考えています。

子どもたちのためにと先回りしすぎた指導が、主体性を妨げているのかもしれない。子どもたちの状況を見つつ、もっと子どもたちに任せていいのかもしれない。

「自分で自分のことを決められる子どもに育てたい」という目的に立ち返り、考えていこうという「これからの学校プロジェクト」。先生たちが本音で語り、チャレンジできるよう取り組みます。

プロジェクト、いよいよ本格始動！

学校改革に取り組む風土づくりとして講演会を開催します。

5月は、木村泰子先生（大空小学校初代校長）をお招きし、子どもが主体の学校づくりの極意とヒントを教えてくださいました。参加者は、学校長等300名以上でした。

6月8日は、工藤勇一先生（麴町中学校元校長）をお迎えし、社会の変化とこれからの学校教育についてお話を伺います。子どもたちの主体性・当事者性を育み、学校の当たり前を見直してこられた実践に学びます。

このような気づきを得て、具体的に動き出すための支援を行っていきます。

ファシリテーター養成として、外部コンサルタントを入れ、県・市町教育委員会の職員がファシリテートの手法を学びます。各学校で、教育改善に向けたワークショップを行う際、最初は外部コンサルタントが入りますが、その後は、ファシリテート研修を受

けた職員が伴走を支援します。

先生たちは、子どもたち主体の深い学びを実現したい、と考えています。先生方が考える「取り組みたいこと」が、叶えられるようにしたいと思います。先生方にも「やってみるから、はじめる。はじまる」を実践してもらいたいと考えます。

子どもたちの主体性を育むため、教職員が大事にしたいこと、「対話」を通して目的を問い直し、やってみる。それが、子どもたちの学びに反映されていくと思います。

＜子どもたちの笑顔のために～悩みに寄り添う支援の充実～＞

誰もが安心して学べる「さがすたいるスクール」の推進

県の施策「さがすたいる」のコンセプトを学校にも取り入れ、誰もが個性や価値観を尊重され、安心して学ぶことができる学校づくりを進めています。

学校現場には、様々な課題があります。

- ・不登校対応：初期対応、一人一人の状況に応じた支援
- ・いじめ問題対策：未然防止、早期発見・早期対応、再発防止
- ・教育相談体制：相談しやすい環境づくり、悩みに組織的に対応する「チーム学校」これらの充実を図っていきます。

多様な相談ニーズに応え、子どもたちの悩みに寄り添います

「チーム学校」による支援ネットワーク

先生が、一人で抱え込んでいては解決できません。教育相談コーディネーター、担任、校長、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーが、チームで対応します。

スクールソーシャルワーカーは、課題を抱えている子ども・家庭と関係機関をつなぐ福祉のスペシャリスト。学校だけでは解決できないところを外部機関とつながり、解決につなぐことができるため、その役割は年々高まっています。

全県立学校、公立の小中学校にも配置(巡回)し、相談しやすく、ネットワークを作りやすい環境を整えています。

AI によるチャット相談

子どもたちが相談しやすい環境が大切です。県教育委員会は、電話相談窓口「心のテレフォン（24 時間子ども SOS ダイアル）」を設置しています。

相談のハードルを低くするため、AI 相談窓口の実証実験を始めています。「友達 AI ちゃん」は、スマートフォンの LINE で気軽に相談できます。実証実験は 9 月まで。

支援のネットワークの強化、相談のしやすさ・多様化に努め、子どもたちの悩みに寄り添えるよう、「さがすたいるスクール」の実現を進めていきます。

<「ふるさと納税」による県立学校応援プロジェクト>

子どもたちの学びや挑戦を応援

学校を指定して応援するふるさと納税の制度が、もともとありました。令和4年4月からホームページ上の入口をわかりやすく整理したところ、4年間で228件、6,000万円を超える寄附をいただきました。皆さまの応援が、子どもたちの力になっています。寄附の活用例です。

- ・佐賀商業高校：高性能パソコンを購入。e スポーツ大会上位入賞を目指し練習中。
- ・有田工業高校：工作機械を修繕。実習やコンクール出展に向けた作品作りに活用。
- ・鹿島高校：楽器（チューバ）購入。学校や地域行事等で演奏。
- ・武雄高校：テニス用具を購入。全国大会を目指し練習中。
- ・致遠館高校：学校のシンボル「カリヨンの鐘」の修復目標額達成。令和9年度の創立40周年記念式典までに修復予定。

寄附は、県教育委員会のホームページから申し込めます。

佐賀東高校 ここでしか出来ない学びを活かして、地域へ、世界へ！

佐賀東高校のグラウンド、「ヒガシノシバフ」がこの春完成しました。

現在、授業や部活動で活用しています。例えば、部活動であればサッカーだけでなく、野球部だったり陸上部だったり、ここで練習をしています。

メリットは、水はけが良く、雨が降った後もすぐ使用できること。クッション性があり、怪我のリスクが低減できること。部活動、公式試合、体育の授業、また学校公式アイドルのプロモーションのビデオ撮影でも活用されています。

東高は、地域とのつながりを大切に、学びを活かしています。

・演劇部による上演会

小中高向けに佐賀をテーマに上演し、再演依頼が来るほど好評を得ています。江藤新平の功績を語る劇は、地域に出向いて上演しています。

以下の2つは新しい取り組みです。

・コンディショニングトレーニング体験会

スポーツ科の生徒が学んだ知識と技能を生かし、健康な体づくりを地域の方々にレクチャーします。R8年9～10月に開催予定で、肩や腰などの機能改善を図ります。幅広い世代の方々とコミュニケーションを取ることで、様々な力を伸ばす機会となります。

・サッカーフェスティバル（大会）

小学生が「ヒガシノシバフ」で、サッカー部の生徒から練習やトレーニングの方法を習います。JFA基準を満たし、公式試合もできる人工芝を体験する機会です。高

校生の企画・運営する力の向上、小学生が「ここでサッカーをしたい」「ここで学びたい」と思えるきっかけになることを期待しています。

唐津青翔高校 全日制公立高校で日本初！eスポーツ学科始動!!

全日制公立高校では全国初のeスポーツ学科が始まりました。

eスポーツ講座では、単にゲームを学ぶだけでなく、コミュニケーション力、課題解決力、チームワークなど、デジタル社会に必要な知識と力を育てます。

eスポーツスキルトレーニングでは、プロコーチの指導の下、ゲームの技術だけでなく、チームで協力する力や相手に伝わる声のかけ方も学びます。ストリーミングや動画配信、3Dモデリング、動画編集、Webサイト・Webデザイン、イベント運営も学習内容に含まれます。

eスポーツ部もでき、高校生のeスポーツ大会「STAGE:0」に向けて練習中です。

このような学びを支えるため、校舎のリノベーションを行い、eスポーツルーム、デジタルアートスタジオの環境を整備しました。生徒からは、ここにしかない学び、仲間がいること、恵まれた環境だと好評を得ています。

【県外生へのPR】高校進学フェス

東京に加え、大阪でも初開催します。東京会場にはVR体験ブースを設け、学校の魅力を紹介します。

・唐津青翔のオープンスクール（7月）

中学生を対象の体験入学イベントです。eスポーツ学科の生徒も企画に携わります。

対面やオンラインによる高校進学説明会を開催！

・高校進学説明会（対面）

県内5か所で開催します。最大30校が集まり、予約不要、服装自由で参加できます。より詳しく話を聞きたい場合は、予約により個別相談も可能です。直接話を聞くことで、行きたい学校や進路を明確にする機会になります。

・オンライン高校進学説明会

SAGA 県立高校進学ナビでは、各高校が工夫を凝らした紹介動画を公開しています。私立高校や高等専修学校の紹介動画も見ることができます。

・出張！佐賀さいこう！高校進学説明会

5月は、福岡のショッピングセンターで唐津の県立高校の説明会を行い、187名が来場しました。

7月は、長崎で開催予定です。松浦市で伊万里高校と伊万里実業高校、諫早市で太良

高校の説明会を行います。

12月には、東京の移住イベントに出展します。全国から生徒を募集する有田工業高校、唐津青翔高校、牛津高校が、学校の魅力や佐賀での暮らしと学びを発信します。

さんフェア SAGA 2026

第36回全国産業教育フェア佐賀大会の開催まで142日。3月には県内外から関係者が集結し、実行委員会が発足しました。生徒実行委員会によるプレゼンでは、産業教育のすごさを身近に感じてもらいたい、会場全体を学びと驚きのテーマパークにしたいなどの意気込みを発表しました。

生徒実行委員会は、18の高校から参加した26人です。さが桜マラソン、有田陶器市、栄の国祭りなどでPR活動を行い、今後も県内イベントに参加予定です。

全国競技の内容が正式に決定しました。

- ・佐賀を舞台にしたロボット競技大会

吉野ヶ里遺跡・呼子の朝市・有田陶器市などをテーマにミッションを設定。自作の操作型・自立型ロボット2台でクリアを目指します。

- ・クッキングコンテスト

佐賀の海苔と、選手の地元食材を組み合わせた本格ランチ対決。佐賀海苔の使い方が注目ポイントです。

- ・D I選手権大会

佐賀大会独自の競技。自作A Iに方言を学習させ、標準語と方言を相互変換するための精度やA Iの活用アイデアを競います。

このほか、介護技術コンテストやビジネスアイデアコンテストなど、佐賀県が上位入賞した実績の多いプログラムもあり、展示も充実する予定です。